

令和3年度科学研究費助成事業「新学術領域研究（研究領域提案型）」に係る中間評価結果

領域番号	7102	領域略称名	全能性プログラム
研究領域名	全能性プログラム：デコーディングからデザインへ		
領域代表者名 (所属等)	小倉 淳郎 国立研究開発法人理化学研究所・バイオリソース研究センター・室長		

(評価結果)

A (研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの進展が認められる)

(評価結果の所見)

本研究領域は、全能性プログラムの解読（研究項目 A01）及び全能性の制御と構築（研究項目 A02）の研究項目によって、全能性プログラムを統合的に理解し、先進的ゲノム解析技術と我が国独自の発生工学技術を融合させた全能性研究拠点を創出することを目的としている。全能性の分子生物学的な理解とその普遍原理の追求に向けて、個々の研究が順調に進行し、受精卵におけるアクチンの新機能の発見、ハムスターを用いた母性因子の機能解明などの目覚ましい成果を多数上げている。本研究領域には若手研究者も多く参画し、「若手だけの交流会」や第一著者による論文徹底解説などの若手育成に対する取り組みが行われており、実際、若手研究者がシニア研究者に劣らない優れた成果を上げていることは高く評価できる。総じて、研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの進展が認められる。

一方で、領域内共同研究の成果が増加しているものの、全体的には個別研究にとどまっている印象がある。今後、研究領域全体としての研究推進及び領域内の有機的な連携によって正面から全能性解明に焦点を当てた研究進展を期待する。